



霜しもはどうしてできるの、何なにからできるの

水蒸気すいじょうきがいきなり氷こおりになる

水みずは温度おんどのちがいにより、ふつう、固体こたい（氷こおり）液体えきたい（ふつうの水みず）気体きたい（水蒸気すいじょうき）
 または、気体きたい 液体えきたい 固体こたいの順じゆんに姿すがたを変かえていきます。しかし、霜しもができるときは、その
 ようすがちがいます。

冬ふゆの寒さむい朝あさに、地面じめんの石いしや地面じめん近くちかの植物しょくぶつに、霜しもがついているのをよく見みかけます。霜しもが
 できるときは、まわりの温度おんどが0ドスィー以下いかになったときです。

夜よるの間あいだに、地面じめんや地面じめん近くちかにある石いしや植物しょくぶつが冷ひやされて、0いか以下くうきちゆうになると、空気中くうきちゆうの
 水蒸気すいじょうきがふつうの水みずにならないで、いきなり氷こおりになって石いしや植物しょくぶつなどにつきます。このよ
 うにしてできたのが霜しもです。霜しもを虫めがねでみると、針はりのような結晶けっしょうになっています。

霜柱しもばしら

やはり、冬ふゆの寒さむい朝あさに、畑はたけなどのやわらかい土つちが盛り上もあがっている所ところを歩あるくと、サクサ
 クと音おとがして、土つちの下したにある氷こおりの柱はしらを、ふみつぶしたことがあるかと思おもいます。この氷こおりの
 柱はしらを霜柱しもばしらといいます。

冬ふゆでも土つちの中なかはわりあい温あたたかいので、土つちの中なかの温度おんどは、0いか以下さに下さがることはあまり
 ありません。霜柱しもばしらは、土つちの中なかの温度おんどが0いじょう以上ちじょうで、地上おんどの温度いかが0いか以下いかのときにできま
 す。土つちの中なかの水分すいぶんが細こまかい土つちのつぶの間あいだを通とおって、どどんどんのぼぼっていき、地上ちじょうの低ひくい気き温おん
 に冷ひやされて、氷こおりになります。

水みずがどどんどんのぼぼっていくので、氷こおりが縦たてに重かさなり、氷こおりの美うつくしい柱はしらになります。霜柱しもばしらは、
 地面じめんの土つちをおし上あげてできるのつちで、土つちがやわらかい所ところにできます。

（監修・村山 貢司）

